

SKY コーナー

2022年度 情報通信エンジニアリング協会 北海道支部 安全大会

情報通信エンジニアリング協会 北海道支部

はじめに

2022年4月21日（木）、2022年度ITEA北海道支部安全大会をオンラインにより開催しました。

北海道内140拠点および東京（ITEA本部）をオンラインで結び、NTT設備グループ各社、つうけんグループ各社、協力会社様等を含め、約500名を超える皆様にご参加いただき、安全に対する意識統一と人身・設備・交通事故の0化を誓い、盛況のうちに閉会しました。

式次第

1. 開会宣言
2. 大会挨拶
ITEA 北海道支部長 大村 佳久
ITEA 本部専務理事 小枝 明広
3. 来賓挨拶
NTT東日本北海道事業部長 阿部 隆様
4. 北海道支部における安全・品質の取組みについて
エクシオグループ(株)北海道支店安全品質管理部門部門長 白野 祐輔
5. 安全決意表明
(株)ミライト北海道支店 市川 大輔
6. 安全スローガン唱和
日本コムシス(株)安全品質管理部門 海谷 豪秀
7. 閉会宣言
司会 エクシオグループ 中條 一希
(株)つうけん 佐藤 なな子



写真1 大村支部長

大村支部長挨拶

コロナ禍の不自由な環境の中で頑張ってもらっていることに対するお礼の後、「北海道における人身・設備事故・交通事故の振り返り」「繰り返される事故」「交通事故の削減に向けて」3点のお話がありました（写真1）。

2021年度人身事故を1件つうけんで発生させていただきました。ここ数年間で2件は、数字を見れば少ないが、決して起こしてはいけない事故です。設備事故は、まだ

○ それでも事故は起こる

事故の発生の度に 皆さんと知恵を出し合い 再発防止を検討・実践してきました。

皆さんと共に決めたルール	それでも事故は起こる	守る（定着）
<ul style="list-style-type: none"> 背景を含めた事故原因究明 再発防止策の検討 <ul style="list-style-type: none"> 作業手順の見直し 器具工具の改良 安全装備の配備 再発防止策の展開（定着） 作業前ミーティング 危険予知（KY） 	<p>錯覚 不注意 近道行動 省略行動</p>	<p>自分達が決めたルール 決められているルール</p> <p>私たちの使命 命を守る任務をしっかりと やり続けなければならない</p>

皆さんへお願い！
基本動作及び作業手順を遵守し、仲間と声を掛け合いながら、無事故の継続をお願いします。

近道行動 STOP!

○ 交通事故の削減に向けて

● 交通事故の削減に向け、各社にて交通事故削減に向けた取り組みを展開中であり、従来からの交通安全教育に加え、運転データに基づく安全運転指導、先進技術を導入した車両の装備化を実施。

<p>○ 運転スキル・マインドの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全講習 運転適正診断 交通事故事例の共有 冬道運転講習 セーフティリーダーへの参加 安全運転指導（DRデータ活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 運転スキル・マインド向上／車両装備化を進めているが、依然として運転技術不足等による事故が発生している。 ◆ 環境変化（冬型のスリップ等）による交通事故が発生している。
<p>○ 先端技術による車両の装備化推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ドライブレコーダー等 バックモニター バックパー 高機能化 バック（コーナ）センサー 衝突防止自動ブレーキ 	<ul style="list-style-type: none"> □ 安全確認不足、運転操作誤り等、個人の運転行動、運転技術不足のサポート □ 運転技術維持・向上に向けた基本対策 □ 冬の安全装備点検（安全パトで確認）



写真2 小枝専務理事



写真3 阿部事業部長様

全国的にも多く発生していることから、決められた手順をしっかりと守ることが再発防止には不可欠です。

交通事故は、減少傾向を続けてきていましたが、2021年増加に転じてしまいました。

決められたルールをしっかりと守り、基本動作の徹底を改めてお願いするとともに、運転技術の向上やさまざまな対策により事故削減を続けていきたい。

会員各社の皆さんと共に一丸となり、安全活動の推進に頑張っていきたいと思います。

小枝専務理事挨拶

アクセス系は特に、現場の状況がかなり区々になるため、通り一遍の基本動作だけでは適切に対応できない。共通的な鉄則を理解したうえで、自らの危険感度を上げ、個々の環境でどんな危険ポイントがあるのかを、自らが判断し、実行することが重要である。

そして、その実行には、必ずひと手間かかる。そのひと手間は、魔が差して何度か手抜きしても、即事故につながる訳ではない。その楽しめた事実が重なると緩みにつながり、本人にとっては十分しっかりやっているつもりになってしまう。その緩みがいつかは必ず事故になる。この、ひと手間を、「とにかくやれ」と言ってしまうと、単なるやらされ感になってしまう。

手間のかかる事を何故やらなければいけないのか、背景の原理原則をしっかりと現場に説明し、理解してもらうと同時に、安パトによって、しっかり指摘してあげる事が大事だというお話をいただきました（写真2）。

来賓挨拶 阿部事業部長様

来賓を代表して、NTT東日本 北海道事業部長阿部様よりご挨拶をいただきました（写真3）。

高度無線環境整備事業の完遂に向けた取組みの結果、80自治体で開通を迎えたことへの感謝のお言葉と開通を心待ちにしている24自治体があることを心にとめて、これからも安全を意識した取組みをお願いしたいというお言葉をいただきました。

また、新ビジネス創設、光基盤を生かした地域活性化への貢献、サステナブル経営の実現という「北海道変革の3本柱」を中心としたNTT東日本 北海道事業部の事業方針などの貴重なお話をいただきました。

地域に根差した会社として、自治体を助けて社会を支えていくために、自治体と連携協定を提供し、関係性を深めています（図1）。

また、広い北海道のインフラを守るというのは非常に大変なことです。同じ大変な思いをしている北海道電力と包括連携協定を結び、4月には災害対策連携での具体的内容に関する連携協定書を締結しました（図2）。

最後に、富良野の西達布ビルでは、太陽光パネル等を設置し、完全にカーボンニュートラルなビルの実現に向けて取り組んでいます。これは全国初の取組みですが、このような取組みに挑戦することは、北海道の責務であ

- これまで、地域活性化に向け産業分野等で自治体と連携協定を結んできた他、「デジタル人材」を自治体に派遣し、自治体のDX化等に貢献してきた。
- また、災害対策では開発局や道庁、各自治体と連携協定を締結し、有事の際の対応面から関係性を深めた。
- 今後も自治体のパートナーとなるべく、営設両面から戦略的に連携協定の締結を活用していく。

● 当別町様
「デジタル田園都市の実現に向けたパートナー協定」
・ デジタル・サービスの活用やICTを活用した教育環境の改善・向上等についての実現に貢献する協定を締結。
● 今金町様
「社会課題解決に向けたICT利活用に関する連携協定」
・ スマート農業の実現や自治体業務DXに関する連携協定を締結
● デジタル人材派遣制度等
上士幌町、富良野市、当別町、道庁、HARP



今後も必要に応じ連携協定を活用し、リレーションを深める

図1 自治体との協定等を通じたパートナーシップ

ると認識しています（図3）。今後もこのような取組みに挑戦していくとのお話をいただきました。

北海道における安全・品質の取組みについて

北海道支部各社を代表し、エクシオグループ白野部門長より北海道支部における安心・安全の取組みについて発表しました（写真4）。

2022年度の取組みとしてアクセス・ネットワーク・モバイル等工事での他社連携による合同パトロール、冬型交通事故撲滅に向けた対策などについて発表いただきました（図4・5）。

コロナ対策の改めでの徹底と大量なSO等の中でも「安全が全てに優先する」という原則にのっとり、迷ったときにはいったん作業をストップし、デスクに確認することを徹底して下さいと締めくくりました。



写真4 白野部門長

● 人口減少や地域経済の縮小によって経営基盤の維持が難しくなりつつある地域インフラ産業の新たな在り方を目指し、北海道電力と包括連携協定を締結（2021年12月）

● 連携による協働意識が両社に浸透し、「通信ビルのクリーンエネルギー化」や「ドローンによる橋梁点検」といった新たなテーマを加え、全9テーマについて検討や実証を推進。

最新技術の活用

- MMSを活用した設備点検
- 工事立合いWeb受付
- ドローンを活用した橋梁点検
- カーボンニュートラル

災害対策連携

- 円滑な道路通行確保
- 事業敷地・資機材等シェアリング
- 相互の資機材を活用した作業連携

ビジネス協業

- 電気×ガス×光
- 地域応援プラットフォーム

4月4日、具体的内容に関する連携協定書を締結

図2 インフラ関連企業との包括連携協定

4社のクロスパトロールを実施。
A社のアクセス系担当がBネットワーク系工事をB社の安全担当とパトロールを行い違う目線でチェックを実施し、安全管理の目線を合わせ疑問点等は4社で解決・展開し良い施策は自社へ展開しより安全に作業を行う仕組み・手順を確立します。

【クロスパトロールイメージ】

(案)	コムシス	つうけん	ミライト	エクシオ
コムシス		所外：つうけん	所外：ミライト	所外：エクシオ
つうけん	所外：コムシス		所内：ミライト	所内：エクシオ
ミライト	所内：コムシス	所外：つうけん		所外：エクシオ
エクシオ	所内：コムシス	所外：つうけん	所内：ミライト	

電工工事、ドコモ工事、土木工事、NW工事、ACT工事

図4 合同パトロール

● 西達布エリアを自治体と連携し光サービスへのマイグレ促進と隣接ビルからのメタル提供によりALL光化の先駆的なモデルケースとし、カーボンニュートラル実現にもチャレンジ

◇ ALL光化実現に向けた見直し

- 高達布エリア 光化状況

◇ カーボンニュートラル実現に向けて

- PV設置場所

西達布エリアの通信設備
西達布ビルより数百メートル（約96,000m）

西達布ビル
RT-BOX
IP-BOX
経路経路台にパネル設置（約50m）

＜ALL光化に向けた取組み方針＞

- 残るメタルの光化
- 自治体と連携し、光サービスの必要なマイグレ促進
- 光回線電化化（無線上の課題と本社連携で対応）
- 隣接ビルへの取寄せ
- 公衆回線など最終的に残るメタル回線について、隣接ビルから併せて取寄せすることも検討

コスト・構築期間：
本方針を踏まえパートナー企業を選定

図3 ALL光化・カーボンニュートラル実現に向けた取組み

冬場の交通事故撲滅に向けて北海道で行っている「冬の交通安全運動」に加えてITEA北海道支部独自の「冬の安全装備点検」を実施し厳しい道路状況のなか事故を防ぎます。

ITEA統一施策① 運転技術維持・向上に向けた基本対策

- 実際の交通事故映像等を活用した運転学習を安全推進強化期間（上・下期）で実施

ITEA統一施策② 冬の安全装備点検

- 移動時におけるリスク回避
- 冬期間の車両事故の再発防止
- アルコールチェック徹底確認
 - 夜間の運転の自粛
 - 始業点検の徹底
 - 冬装備の徹底

安全パトロールチェック項目に「冬の安全装備点検」を追加

チェックリスト

- 主なチェック例
- 冬対策装備の確認（凍り止め、スリップ、砂の積載等）
- 不凍液残量確認（始業点検で実施）
- ホワイトアウト時の対処方法を運転手に再確認 など
- 乗車前アルコールチェック確認

【2020開始～継続実施中】

歩行者としての自分を守る活動

- 反転材の着用により、通勤時間短縮など、死亡交通事故が多くなる時期・時間帯にドライバーに早めに自分の存在を知らせて、自己防衛するとともに交通安全意識の醸成を図りました。

ITEA各社：全社員に4,500個 配布
【2020施策】 カバ・防寒イメージ

運転者を守る活動

- プロドライバーとしての自覚・意欲高揚と無事故を祈願し「交通安全の御守り」を全車両に配布しました。

ITEA各社：全車両に1,900個 配布
【2021施策】

図5 交通事故撲滅

安全決意表明



ミライト 市川 大介さん



安全決意表明

私たちは、「安全は何よりも優先すること」を念頭に、

- 一、作業前には現場責任者、作業員、交通誘導員、全員でミーティングを行います。
- 一、先験工程の確認、安全に作業できる環境の準備、健康状態の確認を行い、仲間との安全・命を守ります。
- 一、違和感を感じたら一旦立ち止まり、なにもあれ無視・逆相、自己判断を行わず、安全に作業を実施します。
- 一、近道行動はせず、慌てず互らず作業手順を遵守し安全作業に徹します。
- 一、お客様情報の取り扱いには細心の注意を払い、情報漏洩の防止に努めます。
- 一、安全運転を心掛け交通ルールの遵守と交通マナーを守り交通事故防止に努めます。

以上、安全の確保、品質の確保に万全を期し、情報通信インフラの構築に貢献します。

二〇二二年四月二十一日

情報通信エンジニアリング協会 北海道支部代表
株式会社ミライト 北海道支店 ドコモエンジニアリング部

市川 大介

安全スローガン唱和



2022年度安全スローガン

思い込み 必ずあるぞ 落とし穴
焦らず 急がず 無理をせず
確認・点検怠るな

情報通信エンジニアリング協会
北海道支部



日本コムシス 海谷 豪秀さん